



## CHAPTER 3

# Cisco DCNM サーバのインストール

この章では、Cisco Data Center Network Manager (DCNM) サーバ ソフトウェアを、以前の Cisco DCNM サーバがインストールされていないサーバ システムにインストールする方法について説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 「Cisco DCNM サーバのインストールに関する情報」 (P.3-1)
- 「プライマリ Cisco DCNM サーバのインストール」 (P.3-2)
- 「セカンダリ Cisco DCNM サーバのインストール」 (P.3-7)
- 「Cisco DCNM サーバのインストール機能の履歴」 (P.3-10)

## Cisco DCNM サーバのインストールに関する情報

ここでは、次の内容について説明します。

- 「プライマリ サーバのインストール」 (P.3-1)
- 「セカンダリ サーバのインストール」 (P.3-2)

## プライマリ サーバのインストール

プライマリ サーバのインストールでは、次のいずれかの目的で Cisco DCNM サーバ ソフトウェアをインストールします。

- 単一サーバの Cisco DCNM 環境を導入する。
- 最初の Cisco DCNM サーバをクラスタ化されたサーバ環境にインストールする。

プライマリ サーバのインストールでは、Cisco DCNM インストーラ ウィザードを使用して、Cisco DCNM サーバの設定方法に関する情報を収集します。インストーラで必要な情報を入力すると、サーバ ソフトウェアがインストールされます。

プライマリ サーバをインストールすると、*INSTALL\_DIR/dcm/dcnm/config* ディレクトリに次のファイルも作成されます。

- *installer.properties* : プライマリ サーバが属するサーバ クラスタに各セカンダリ サーバをインストールするときに使用されます。
- *re-installer.properties* : プライマリ サーバが属するサーバ クラスタにセカンダリ サーバを再インストールするときに使用されます。

- `licenses-installer.properties` : プライマリ サーバが属するサーバクラスタ内のセカンダリ サーバで Cisco DCNM ライセンスをインストールするときに使用されます。

Microsoft Windows サーバ システムでは、デフォルトの `INSTALL_DIR` の値は `C:\Program Files\Cisco Systems` です。RHEL サーバ システムでは、デフォルトの `INSTALL_DIR` の値は `/usr/local/cisco` です。

## セカンダリ サーバのインストール

セカンダリ サーバのインストールでは、追加の Cisco DCNM サーバをクラスタ化されたサーバ環境にインストールします。このインストールは、プライマリ サーバをクラスタにインストールしたあとにだけ実行できます。

セカンダリ サーバのインストールはサイレントインストールです。コマンドプロンプトからインストールを実行したあと、情報の入力を求めるプロンプトは表示されません。代わりに、セカンダリ サーバのインストールでは、セカンダリ サーバが属するクラスタにプライマリ サーバをインストールしたときに作成された `installer.properties` ファイルの情報が使用されます。

Cisco DCNM のクラスタ化されたサーバの導入では、各セカンダリ サーバをまったく同じように設定する必要があります。プライマリ サーバの `installer.properties` ファイルを使用することで、これを実現できます。詳細については、「[クラスタ化されたサーバの設定の要件](#)」(P.1-6) を参照してください。

## プライマリ Cisco DCNM サーバのインストール

この手順では、Cisco DCNM サーバソフトウェアをクラスタ化されたサーバ環境のプライマリ サーバシステムにインストールする方法、または単一サーバ環境の唯一のサーバとしてインストールする方法について説明します。

### 作業を開始する前に



(注)

- 単一サーバを導入する場合は、「[単一サーバの Cisco DCNM 環境の導入](#)」(P.1-7) の [ステップ 1](#) ～ [ステップ 3](#) を実行しておく必要があります。
- クラスタ化されたサーバを導入する場合は、「[クラスタ化されたサーバの Cisco DCNM 環境の導入](#)」(P.1-8) の [ステップ 1](#) ～ [ステップ 5](#) を実行しておく必要があります。

Cisco DCNM サーバでインストール済みのデータベースが使用されるようにする場合は、そのデータベースが実行されていることを確認します。データベースがプライマリ サーバシステムに対してリモートである場合は、プライマリ サーバシステムからデータベースにアクセスできることを確認します。

Cisco DCNM で使用するアーカイブディレクトリのフルパスを確認します。クラスタ化されたサーバの Cisco DCNM 環境を導入する場合は、プライマリ サーバからクラスタ内のすべてのサーバで使用するために準備したディレクトリへのフルパスを確認します。アーカイブディレクトリのパスは、各サーバで同じである必要はありません。ただし、クラスタ内のすべてのサーバで同じアーカイブディレクトリを使用する必要があります。

サーバシステムでウイルス対策ソフトウェアおよび命令検出ソフトウェアをディセーブルにします。一般に、Cisco DCNM サーバソフトウェアのインストールを妨げる可能性があるセキュリティソフトウェアまたは機能をディセーブルにします。インストールの完了後に、ソフトウェアまたは機能を再度イネーブルにします。

## 手順の詳細

**ステップ 1** 次に示す必要な特権を持つユーザ アカウントを使用してサーバにログインします。

- Microsoft Windows の場合、ユーザ アカウントはローカル管理者グループのメンバーである必要があります。
- RHEL の場合、ユーザ アカウントは root である必要があります。

Cisco DCNM を Microsoft Windows にインストールし、Remote Desktop Connection (RDC; リモートデスクトップ接続) を使用して Cisco DCNM サーバシステムにアクセスする場合は、次のようにコマンドプロンプトから RDC を開始し、/console オプションを使用します。

```
C:\>mstsc /console /v:server
```

server は、Cisco DCNM サーバシステムの DNS 名または IP アドレスです。

**ステップ 2** Cisco DCNM サーバ ソフトウェアをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のいずれかのファイルを実行します。

- Microsoft Windows の場合は、dcnm-k9.release.exe ファイルを実行します。
- RHEL の場合は、次の sh コマンドを使用します。

```
sh dcnm-k9.release.bin
```

インストーラでインストールの準備が完了したら、[Introduction] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。

**ステップ 3** [Next] をクリックします。

[Please Read Before Continuing] 情報が Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。

**ステップ 4** [Next] をクリックします。

**ステップ 5** [Choose Install Folder] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示された場合は、次の手順を実行します。



(注) Cisco DCNM インストーラによって Cisco Fabric Manager Release 4.2(1) 以降がサーバシステムにインストールされていることが検出された場合、[Choose Install Folder] ステップは表示されません。

a. (任意) デフォルトのインストール フォルダを変更する場合は、目的のインストール フォルダを入力するか選択します。

b. [Next] をクリックします。

[Database Options] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。すでにインストールされている PostgreSQL または Oracle を使用できます。また、PostgreSQL がサーバシステムにインストールされていない場合は、Cisco DCNM インストーラを使用して PostgreSQL のインストールを追加できます。



(注) Cisco DCNM インストーラによって Cisco Fabric Manager Release 4.2(1) 以降がサーバシステムにインストールされていることが検出された場合、使用できるデータベース オプションは、Fabric Manager で使用するよう設定されているデータベースだけです。

**ステップ 6** PostgreSQL をインストールする場合は、次の手順を実行します。

a. [RDBMS] の横にある [Install PostgreSQL] をクリックします。

サーバシステムで RHEL を実行している場合は、[System User] ダイアログボックスが表示されます。

- b. (RHEL のみ) [System User] ダイアログボックスで、PostgreSQL ソフトウェアを実行するために使用するユーザ アカウントのユーザ名を入力します。このユーザ アカウントには、管理者特権または root 特権が付与されていないことが必要です。
- c. [DB Admin User] フィールドに、データベース管理者アカウントのユーザ名を入力します。インストーラによって、指定した管理者アカウントが作成されます。
- d. [DB Admin Password] フィールドに、指定したデータベース管理者のユーザ名のパスワードを入力します。
- e. [DCNM DB User] フィールドに、Cisco DCNM がデータベースにアクセスするために使用するユーザ名を入力します。デフォルトのユーザ名は `dcnmuser` です。インストーラによって、指定したユーザ アカウントが作成されます。
- f. [DCNM DB Password] フィールドに、指定したデータベース ユーザ アカウントのパスワードを入力します。
- g. [Confirm DCNM DB Password] フィールドに、指定したデータベース ユーザ アカウントのパスワードを再入力します。
- h. (任意) PostgreSQL データベースのデフォルトのインストール フォルダを変更する場合は、[Install Location] フィールドで、目的のインストール フォルダを入力するか選択します。

#### ステップ 7

すでにインストールされている Relational Database Management System (RDBMS; リレーショナルデータベース管理システム) を使用する場合は、次の手順を実行します。

- a. [RDBMS] の横にある次のいずれかをクリックします。
  - [Use existing PostgreSQL 8.1/8.2]
  - [Use existing Oracle 10g/11g]

Cisco DCNM インストーラによって RDBMS がすでにインストールされていることが検出された場合は、[DB URL] フィールドにそのデータベースの URL が表示されます。



**(注)** Cisco DCNM インストーラによって Cisco Fabric Manager Release 4.2(1) 以降がサーバシステムにインストールされていることが検出された場合、[DB URL] フィールドには Fabric Manager データベースの URL が表示され、このフィールドは設定できません。

- b. [DB URL] フィールドにデータベースの正しい URL が表示されていない場合は、正しい URL を入力します。
- c. [DB Admin User] フィールドに、Cisco DCNM データベース方式および Cisco DCNM データベース ユーザ アカウントを作成する権限を持つデータベース ユーザ アカウントのユーザ名を入力します。
- d. [DB Admin Password] フィールドに、指定したデータベース管理者のユーザ名のパスワードを入力します。
- e. [DCNM DB User] フィールドに、Cisco DCNM がデータベースにアクセスするために使用するユーザ名を入力します。  
インストーラによって、指定した Cisco DCNM 管理者ユーザを使用して Cisco DCNM データベース ユーザ アカウントが作成されます。
- f. [DCNM DB Password] フィールドに、指定したデータベース ユーザ アカウントのパスワードを入力します。
- g. [Confirm DCNM DB Password] フィールドに、指定したデータベース ユーザ アカウントのパスワードを再入力します。

**ステップ 8** [Next] をクリックします。

**ステップ 9** [Choose Database (PostgreSQL/Oracle) Root Folder] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示された場合は、次の手順を実行します。

- a. 指定した既存の RDBMS の BIN ディレクトリが格納されているフォルダを入力するか選択します。インストーラで、サポートされているデータベースのデフォルトのインストールパスが一覧表示されます。
- b. [Next] をクリックします。

[Configuration Options] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。

**ステップ 10** [Server IP Address] リストから、Cisco DCNM サーバで使用する IP アドレスを選択します。このリストには、サーバシステムのネットワーク インターフェイスに現在割り当てられている IP アドレスだけが表示されます。



**(注)** サーバシステムの IP アドレスはスタティックに割り当てられます。Cisco DCNM サーバは、インストール時に指定された IP アドレスにバインドします。Cisco DCNM サーバの IP アドレスが変更されると、Cisco DCNM クライアントが Cisco DCNM サーバに接続できなくなるため、Cisco DCNM サーバを再インストールして IP アドレスを再設定できるようにすることが必要になります。

**ステップ 11** Cisco DCNM Web サーバが待ち受けるポートを変更する場合は、[Web Server Port] ボックスに新しいポート番号を入力します。デフォルトでは、Cisco DCNM Web サーバは TCP ポート 8080 を待ち受けます。



**(注)** Web サーバのポート番号を変更すると、Cisco DCNM ユーザが Cisco DCNM クライアントをダウンロードするために使用する URL に影響します。

**ステップ 12** Cisco DCNM サーバが Cisco DCNM クライアントからの接続を受け入れるポートを変更する場合は、[Naming Service Port] ボックスに新しいポート番号を入力します。デフォルトでは、Cisco DCNM サーバは、Cisco DCNM クライアントからの接続を TCP ポート 1099 で受け入れます。



**(注)** Cisco DCNM サーバのポート番号を変更すると、Cisco DCNM ユーザが Cisco DCNM クライアントにログインするときに指定するポートに影響します。


**ステップ 13** (任意) [Configuration Options] ステップで一覧表示される残りのサービス ポートについて、別のポート番号を指定する場合は、次の手順を実行します。

- a. 変更するサービス ポート番号ごとに、フィールドに新しいポート番号を入力します。
- b. [Resolve Port Conflicts] をクリックします。

Cisco DCNM インストーラによって、指定したポートがすでに使用されていることが検出された場合は、未使用のポート番号がサービスに自動的に割り当てられます。

**ステップ 14** [Next] をクリックします。

[IP Multicast Addresses Configuration] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。

- ステップ 15** (任意) Cisco DCNM サーバ クラスタのプライマリ サーバをインストールする場合は、次の手順を実行します。
- [Partition Name] フィールドに、Cisco DCNM サーバ クラスタの一意の名前を入力します。デフォルトのパーティション名は、データベース ホスト インスタンス ID です。名前に使用できるのは英数字だけです。
  - (任意) 必要に応じて、マルチキャスト IP アドレスを変更します。インストーラで提示されたアドレスが Cisco DCNM サーバ クラスタのルーティング環境ですでに使用されている場合は、マルチキャスト IP アドレスを変更する必要があります。
  - (任意) 必要に応じて、マルチキャスト ポートを変更します。インストーラで提示されたポート番号が Cisco DCNM のインストール先のサーバ システムですでに使用されている場合は、マルチキャスト ポートを変更する必要があります。
- ステップ 16** [Next] をクリックします。  
[Choose Archive Folder] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。
- ステップ 17** 次のいずれかを行います。
- クラスタ化されたサーバの Cisco DCNM 環境を導入する場合は、クラスタ内のすべてのサーバで使用するために準備したアーカイブ フォルダを入力するか選択します。
  - 単一サーバの Cisco DCNM 環境を導入する場合は、デフォルトのアーカイブ フォルダを受け入れるか、目的のアーカイブ フォルダを選択することができます。
- ステップ 18** [Next] をクリックします。  
[Local User Credentials] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。
- ステップ 19** [Local Admin Username] フィールドに、Cisco DCNM サーバのユーザの名前を入力します。インストーラによって、Cisco DCNM サーバのユーザが作成され、そのユーザに管理者のロールが割り当てられます。
- ステップ 20** [Password] フィールドにそのユーザのパスワードを入力し、[Confirm Password] フィールドにそのパスワードを再入力します。
-  **(注)** 強力なパスワードを使用することをお勧めします。強力なパスワードの一般的なガイドラインとしては、パスワードの長さを 8 文字以上にすることや、少なくとも 1 つの文字、数字、および記号を使用することなどが挙げられます。たとえば、Re1Ax@h0m3 というパスワードは 10 文字で、1 つの記号と 3 つの数字に加えて大文字と小文字が使用されています。
- ステップ 21** [Next] をクリックします。  
[Authentication Settings] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。  
Cisco DCNM サーバが Cisco DCNM クライアントにログインするユーザを認証するために使用する認証方式を選択します。次のいずれかを選択できます。
- [Local] : Cisco DCNM クライアント ユーザは、Cisco DCNM サーバのユーザ アカウントによってのみ認証されます。
  - [RADIUS] : Cisco DCNM クライアント ユーザは、RADIUS サーバによって認証されます。
  - [TACACS+] : Cisco DCNM クライアント ユーザは、TACACS+ サーバによって認証されます。
- [RADIUS] または [TACACS+] の場合は、最大で 3 台のサーバを指定できます。
- ステップ 22** [RADIUS] または [TACACS+] を選択した場合は、指定するサーバごとに次の手順を実行します。
- サーバアドレスのフィールドに、サーバの IPv4 アドレスを入力します (ドット付き 10 進数)。
  - 秘密鍵のフィールドに、サーバの共有秘密鍵を入力します。

- c. (任意) Cisco DCNM がサーバと通信できることを確認する場合は、[Verify] をクリックします。
- ステップ 23** [Next] をクリックします。
- Microsoft Windows を使用している場合は、アプリケーションへのショートカットを指定するように求められます。RHEL を使用している場合は、リンク フォルダを指定するように求められます。
- ステップ 24** 目的のショートカットまたはリンクのオプションを選択します。
- ステップ 25** (任意) サーバシステムにログインできるすべてのユーザーのためにショートカットが作成されるようにする場合は、[Create Icons for All Users] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 26** [Next] をクリックします。
- [Pre-Installation Summary] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示されます。
- ステップ 27** 選択内容の概要をよく確認します。変更を加える必要がある場合は、Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに変更する必要があるステップが表示されるまで [Previous] をクリックし、前の該当するステップに戻ります。
- ステップ 28** Cisco DCNM サーバ ソフトウェアをインストールする準備ができたなら、[Next] をクリックします。
- Cisco DCNM サーバ ソフトウェアがインストールされます。
- [Start Cisco DCNM Server] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 29** Cisco DCNM サーバを今すぐ起動するかどうかを選択します。Cisco DCNM サーバを今すぐ起動する場合は、サーバの起動中にスプラッシュ画面が表示されます。
- [Install Complete] ステップが Cisco DCNM インストーラ ウィンドウに表示され、Cisco DCNM インスタンス ID 番号も表示されます。
- ステップ 30** (任意) Cisco DCNM のライセンスを注文する場合は、Cisco DCNM インスタンス ID 番号を記録します。ライセンス プロセスで、その番号を入力する必要があります。
-  **(注)** ライセンスがなくても Cisco DCNM の使用を開始できますが、一部の機能を使用するには、ライセンスを購入してインストールし、ライセンス対象機能を使用する管理対象デバイスにライセンスを適用する必要があります。
- ステップ 31** [Done] をクリックします。
- ステップ 29 でインストール後に Cisco DCNM サーバを起動するように選択した場合は、サーバの起動中にスプラッシュ画面が表示されます。
- ステップ 32** (任意) Cisco DCNM サーバを起動する必要がある場合は、『Cisco DCNM Fundamentals Configuration Guide, Release 5.x』を参照してください。
- ステップ 33** (任意) Cisco DCNM ライセンスをインストールする場合は、第 4 章「Cisco DCNM 導入のライセンス設定」を参照してください。

## セカンダリ Cisco DCNM サーバのインストール

この手順では、Cisco DCNM サーバ ソフトウェアをクラスタ化されたサーバ環境のセカンダリ サーバシステムにインストールする方法について説明します。セカンダリ サーバのインストールでは、コマンドライン インターフェイスを使用する必要があるサイレント インストール方式が使用されます。Microsoft Windows の場合はコマンド プロンプト ウィンドウ、RHEL の場合はシェル ウィンドウを使用します。

Cisco DCNM インストーラによって、セカンダリ サーバのインストールに使用するユーザ アカунトのホーム ディレクトリに `DCNM_InstallLog.log` ファイルが作成されます。`DCNM_InstallLog.log` ファイルをモニタリングすることで、セカンダリ サーバのインストールが正常に完了したかどうかを判断できます。

## 作業を開始する前に



(注) 「クラスタ化されたサーバの Cisco DCNM 環境の導入」(P.1-8) のステップ 1 ～ステップ 8 を実行しておく必要があります。

セカンダリ サーバのインストール時に、プライマリ Cisco DCNM サーバで使用するよう設定されているデータベースが実行されている必要があります。

セカンダリ サーバの IP アドレスを確認します。

セカンダリ サーバからクラスタ内のすべてのサーバで使用するために準備したアーカイブ ディレクトリへのフルパスを確認します。アーカイブ ディレクトリのパスは、各サーバで同じである必要はありません。ただし、クラスタ内のすべてのサーバで同じアーカイブ ディレクトリを使用する必要があります。



(注) サーバシステムでウイルス対策ソフトウェアおよび命令検出ソフトウェアをディセーブルにします。一般に、Cisco DCNM サーバ ソフトウェアのインストールを妨げる可能性があるセキュリティ ソフトウェアまたは機能をディセーブルにします。インストールの完了後に、ソフトウェアまたは機能を再度イネーブルにします。

## 手順の詳細

- ステップ 1** プライマリ サーバ システムの次の場所から、`installer.properties` ファイルのコピーを取得します。  
`INSTALL_DIR/dcm/dcnm/config`
- Microsoft Windows サーバ システムでは、デフォルトの `INSTALL_DIR` の値は `C:\Program Files\Cisco Systems` です。RHEL サーバ システムでは、デフォルトの `INSTALL_DIR` の値は `/usr/local/cisco` です。
- ステップ 2** 次に示す必要な特権を持つユーザ アカунトを使用してセカンダリ サーバにログインします。
- Microsoft Windows の場合、ユーザ アカунトはローカル管理者グループのメンバーである必要があります。
  - RHEL の場合、ユーザ アカунトは `root` である必要があります。
- Cisco DCNM を Microsoft Windows にインストールし、Remote Desktop Connection (RDC; リモートデスクトップ接続) を使用して Cisco DCNM サーバ システムにアクセスする場合は、次のようにコマンドプロンプトから RDC を開始し、`/console` オプションを使用します。
- ```
C:\>mstsc /console /v:server
```
- `server` は、Cisco DCNM サーバ システムの DNS 名または IP アドレスです。
- ステップ 3** ディレクトリを選択し、次のファイルをそのディレクトリにコピーします。
- プライマリ Cisco DCNM サーバ システムからコピーした `installer.properties` ファイル。
  - ダウンロードした Cisco DCNM サーバ ソフトウェア。



**ステップ 4** コマンドプロンプトで、必要に応じてディレクトリを変更し、作業ディレクトリが `installer.properties` ファイルと Cisco DCNM サーバソフトウェアを格納しているディレクトリになるようにします。Microsoft Windows では、引数を指定せずに `chdir` コマンドを使用して作業ディレクトリを表示します。RHEL では、`pwd` コマンドを使用します。

**ステップ 5** 該当するコマンドを実行します。

- Microsoft Windows の場合 :  
`dcnm-k9.release.exe -i silent -f installer.properties -DDCNM_IP_ADDRESS=server_ip_address -DDATA_PATH=configuration_archive_directory [-DUSER_INSTALL_DIR=installation_directory]`
- RHEL の場合 :  
`sh dcnm-k9.release.bin -i silent -f installer.properties -DDCNM_IP_ADDRESS=server_ip_address -DDATA_PATH=configuration_archive_directory [-DUSER_INSTALL_DIR=installation_directory]`

たとえば、IPv4 アドレス 10.72.139.14 が割り当てられており、Cisco DCNM 設定アーカイブ用にディレクトリ `W:\DCNMdata` が準備されている Microsoft Windows サーバシステムのデフォルトのインストール ディレクトリにセカンダリ Cisco DCNM Release 5.0(2) サーバをインストールする場合、インストール コマンドは次のようになります。

```
dcnm-k9.5.0.2.exe -i silent -f installer.properties -DDCNM_IP_ADDRESS=10.72.189.14 -DDATA_PATH=W:\DCNMdata
```

表 3-1 に、コマンド構文を示します。

表 3-1 セカンダリ サーバのインストール コマンド構文

| オプション                                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <code>-i silent</code>                                   | インストールをサイレントで行うように指定します。                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <code>-f installer.properties</code>                     | <code>installer.properties</code> ファイルを指定します。                                                                                                                                                                                                                              |
| <code>-DDCNM_IP_ADDRESS=server_ip_address</code>         | Cisco DCNM サーバソフトウェアのインストール先のセカンダリ サーバの IPv4 アドレスを指定します。                                                                                                                                                                                                                   |
| <code>-DDATA_PATH=configuration_archive_directory</code> | クラスタ内のすべてのサーバで使用するために準備したアーカイブ ディレクトリのフルパスを指定します。                                                                                                                                                                                                                          |
| <code>-DUSER_INSTALL_DIR=installation_directory</code>   | (任意) カスタム インストール ディレクトリのフルパスを指定します。このオプションを含めない場合、Cisco DCNM サーバは該当するデフォルトの場所にインストールされます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Windows の場合 :<br/> <code>C:\Program Files\Cisco Systems</code></li> <li>• RHEL の場合 : <code>/usr/local/cisco</code></li> </ul> |

**ステップ 6** `DCNM_InstallLog.log` ファイルをモニタして、インストールのステータスを判別します。Cisco DCNM インストーラによって、現在のユーザアカウントのホーム ディレクトリにログ ファイルが書き込まれます。

**ステップ 7** (任意) Cisco DCNM ライセンスをインストールする場合は、第 4 章「Cisco DCNM 導入のライセンス設定」を参照してください。

## Cisco DCNM サーバのインストール機能の履歴

表 3-2 は、この機能のリリースの履歴です。

表 3-2 Cisco DCNM サーバのインストール機能の履歴

| 機能名                              | リリース   | 機能情報          |
|----------------------------------|--------|---------------|
| クラスタ化されたサーバ環境用のマルチキャスト IP アドレス設定 | 5.0(2) | この機能が導入されました。 |
| セカンダリ サーバのインストール                 | 5.0(2) | この機能が導入されました。 |